

保育者の目で見た ヨーロッパの保育の原点



副 島 ハ マ

保育者ならではの楽しい旅行

★カム カム 何を はじめてお目にかかった方々に、百年の知己のほほえみがかわせたのは、保育界に長い先生ばかりで、自然に心が通じたせいでしょうか。

〃先生、ここ、ここ〃と、飛行機で隣の席をすすめて、笑いさざめきの話しぶりは、まるで園児の遠足風景。

Y先生の ``ウオター、プリーズ`` の頼みにたいして、スチュワーデスが ``カム カム`` と手招いたら ``何をかむの?`` といっ、お話がかみあわない。おいでといわれていることがわかったら、Y先生ご自身、てらわず、隠さず、皆に聞かせて一同大笑い。天真らん漫な保育者こそ人間中の人間――。

★サザエさんと長谷川町子 第一日目に、服を着たまま、シャワーをひねって水を浴びて、着かえようにも旅行かばんがまだホテルについていなくて困ったサザエさん。二日目には机の上に時計があるのに、ベッドの下をぐさぶりスタイルではいまわったサザエさん。お守り役長谷川町子さんと二人は、毎朝の食事に笑いの種を提供する名カップル。

★雨もりマイクロバス チューリンゲン地方にあるフレール先生の遺跡巡礼のため、東ベルリンから来たマイクロバスでは、あいにくその日だけ降った雨がもって、頭から雨の洗礼を受けたAさんが ``キヤーツ`` の叫び声。その声に驚いて運転手が車をとめたら、こんどは前の席のBさんが ``キヤーツ`` と雨の洗礼。やがてエンコ。三

十分くらいで、非常電話の連絡がつき、二時間半の後、代りが来る”というお話。外国は悠長である。

外はどしゃ降り、小さなマイクロバスに閉じこめられて浮かぬ顔のご一行さま。僭越ながら即席団長の私が司会申しあげて、ラジオ体操、キャンピング、のど自慢、さては中教審答申の幼児学校をテーマのディスカッションなど……。ようやく代りのバスに乗りかえ発車する時、東ドイツのガイド氏と運転手が、日本人つて大した国民だ、三時間の間、誰一人不平をいわず、時間を有意義に過ごして……。これが他の国の人ならばくたちはなぐられてけがしてたかも”と話していた由。これも保育者であるからよ。実際は旅行はじめのこのハプニングで、皆親しくなれてよかったですよ。

目と耳で学んだ保育施設

三週間で見た幼稚園と保育所は、①アーバンプラネン保育所、幼稚園（デンマーク コペンハーゲン）

②レートピュブシュ フリッデシュジュエスン アント

コウル幼稚園、放課後教室（同前）

③キンダータゲシュテテ三八番幼稚園（西ドイツ

フランクフルト）

④ペスタロッツ、フレibelハウス保育所 幼稚園
（西ベルリン）

⑤東ベルリン幼稚園

⑥フレibel第二幼稚園（東ドイツ、ブランケンブルグ）

⑦フレibel第一幼稚園（東ドイツ、オーベルワイスマッハ）

⑧シュトルハウス幼稚園（スイス、チューリッヒ）

⑨モンテソリーセンター幼稚園（イタリー、ペルジア）

⑩二十区エコール マテルネル（パリ）

⑪キングウッド、プライマリー スクール（ロンドン）

⑫レイチエル ヤーリング、ナースリー スクール（ロンドン）の十二ヵ所

所屬

・イギリスの保育学校（二〜五歳）の認可と教育指導は文部省、保健の指導監督は厚生省。幼児学校（五〜七歳）は文部省。

・フランスの幼稚園は独立校舎であれば母親学校、小学校附設の場合は母親学級といい、母親学校（二〜六歳）母親学級（四〜六歳）ともに認可は文部省、監督指導は

文部省初等教育視学官、健康管理は公衆衛生人口省。

・西ドイツの専門保育施設は、乳児保育所(〇〜一歳半)と幼児保育所(一歳半〜三歳の二つをまとめて、小児保育所とよび、他に幼稚園(三〜六歳)がある。小児保育所の認可と全般の指導監督は社会福祉省で、教育面だけ文部省視学が指導する。幼稚園の指導監督は州によって、社会福祉省、文部省、内務省、青少年省などまちまち。

・スウェーデンの幼稚園(プレー スクール)は、児童のクラブや青年センター、学校給食、学習手当などと共に児童福祉省の所管。

費用

イギリス、フランスなどでは義務教育でないのに無料。スウェーデンは、誕生すぐから義務教育終了の十六歳まで、一人当たり年間八万四千円の児童手当が交付されるためか、幼稚園(プレー、スクール)では、親の収入により一ヵ月三万五千円から八万五千円までの保育料を納入する。幼稚園には一年間一園児一万四千円の運営費が支払われる。

職員の資格

イギリス、フランスとも小学校と同じで、移行もできし、フランスでは、小学校よりも幼稚園就職希望者の

方が多い由。

クラス担当人員

イギリスの場合、二歳児十五人に教員一、助手一、副手一。三、四歳児三十人に教員一、助手一。五歳児四十人に教員一、助手一。

教員勤務時間

前述⑩の国の場合、午前午後三時間ずつ計六時間、早朝と昼(大半は昼食を食べるため帰宅)と夕方はおばさん先生が世話する。東ベルリンの場合は、一週間に四十四時間(保育準備のための五時間を含む)。

設備

前述①と②の園の遊具は既成の金属のものでなく、セメントだるや材木を利用した先生方の手製のもので心あたたく感じられた。室内玩具のままごと道具などは、その国の家庭生活との関係からか、豪華なものが多かったが、特に前述⑩の園にはごっこ遊びの材料がふんだんにあって、美容院ごっこ材料の中に、パーマのおかまや、子ども用のかつらまであったのは驚いた。

また興味深かったのは積木のほとんどが、フレール恩物の原型に近いものが使用されていたことで、大きい積木には堅いエバソフトが使用されていた。どの国でも

「幼稚園」の名にふさわしく、庭には樹木や芝生など、緑が一ぱいだった。

内容

前述⑧の園では、子どもたちと話しあいながら、親を主とした劇あそびの保育を見たが、先生のギターの伴奏と、使用した小道具が全部先生の手製であると聞いて感心した。最後に積極的に仲間入りできなかった一人の子どもに、私たち旅行団の土産を受ける役を振りあてられたことから、これこそ性格づくり、心を大切にされた保育と感心した。

前述の⑨の園では、モンテソリー教具の中の、洗面、洗おけ、掃除道具が印象に残り、⑩の園では三、四歳の幼児が、その日のおやつを楽しそうに作っていたのが、印象的だった。

前述の⑪の園は、文部省中教審の幼児学校構想のモデルであったと聞いて訪問したが、その内容は幼稚園を七歳まで延長した感じのもので、小学校教育を低年齢まで下げるといふ感じでは全然なかった。とにかくこの国も天才を生むための早教育とか、エリート教育でなく、幼児として楽しい遊びの生活を充実させ、遊びを通して健康も社会性も愛情も知識も、共に伸ばすことが考えら

れているように思えた。

保育の先駆者の遺跡を尋ねて

アンデルセンは幼稚園と特別関係ないともいえようが、保育と切り離せない童話作家なので計画に入れた。一八〇五年彼が生まれたデンマーク、フェーン島、オーゼンセルにある彼の生家は、クリスマスツリーにぶらさげる家を連想させるようなかわいい感じの家、後方が博物館になって彼の愛用の旅行かばん、各国語に訳された童話の本、夢多い彼の切り紙細工、押し花などが陳列されている。

彼は貧しい靴職人だった父から詩的才能と、母から信仰心と、祖母から空想をうけついで成長した。彼の作品「絵のない絵本」などに見られる文才、叙情的な情緒と美しい幻想、あたたかいヒューマニズムなどは、彼の成長期の環境に大きく影響されているようである。

ペスタロッチは一七四六年、スイスのチューリッヒに生まれたが、外科医であった父に死の床から、当時五歳の彼の教育について依頼された家事手伝バベリは、一生をささげて、彼の母スザンナと共に、教育の責任を果たした。

彼のノイホーフにおける農民指導のための農業事業
↓貧民学校 → 「隠者の夕暮」 → 「リーンハルトとゲルトロード」 → 「クリストフとエルゼ」などの出版
↓スタンツの孤児院長 → ブルグドルフ公立小学校教員
↓ブルグドルフに小学校設立 → 「ゲルトロードの教授法」出版などなど、そして七十三歳の時クリンティール貧民学校設立、八十三歳死亡という彼の生涯をふりかえってみると、学校制度と児童福祉制度ができていなかった当時、誰一人手をつけなかった貧しい児童の教育と孤児の保護など、彼自身、自分の使命と思ったこれらのことを、失敗しても失敗してもやり通した彼の強い意志は、彼の後年の著述に「わが友バベリ」とたたえているバベリの影響が大きかったものと思われて、側面的な教育にたずさわる保育者の立場から興味深く感じる。

チューリッヒにあるペスタロッツ研究所と、現在には不良性を帯びた青年の農業指導に使用されているノイホーフ。そして「貧しき者の救い主、孤児の父、国民の創立者、すべてを他人のために」と彼の徳を刻みこんだ墓に参った時は感無量であった。

フレীবेलは一七八二年、ドイツのチューリンゲンのオーベルワイスバッハに生まれ、彼の生後九ヵ月十八日

目に母親を失い、四歳の時第二の母が来て不幸な生活がはじまり、親戚の家に預けられ、義務教育終了後自宅に帰り、イエナ大学に入り、月謝未納のため九週間監禁
↓農夫 → 山林局書記 → 模範学校教師 → ベスタロッツに師事 → ゲッチン大学入学……、幾度か職歴が変わり、五十五歳の時母親学校開設、子どもの遊びの必要を説き恩物を考案し、二年後に「幼稚園」と命名した。

彼は手記の中に「私は実母がなつかしく、ありありと実母の姿を心に描いていた。私の幸福の基礎は家族愛、兄弟愛」といつているが、母親のイメージが心にあつたらばこそ、母親学校、それからその付属として作った幼稚園開設という偉大な仕事を全うしたと思う。私たちは子どもの心のイメージの一部となって残るような教師になりたいものである。

モンテリリーは一八七〇年ローマ郊外に生まれ、ローマ大学で医学を専攻し、二十六歳の時、イタリー初めての女性医学博士号を受け、卒業後大学付属精神病院助手になり、ちえ遅れの子どもが病児扱いされてるのに義憤を感じ、精薄児を研究、指導した。ちえ遅れの子どもの方が一般児より知能指数が高かったことから、一般児の教育にも応用したのだった。

ローマから三〇〇キロのペルジアに、モンテソーリ研究所を訪れた。所長は直弟子パオルミ博士（女性）。女史の説明で教具などを見た時は真に満足であった。モンテソーリの教育原理は①自由、②整理された環境、③感覚教育の重視の三つで、いずれも行きすぎると問題になるおそれがないでもないが、研究所と保母養成学校、そして付属幼稚園のいずれも、整理された環境そのものであったのも、モンテソーリお仕こみの所長の指導によるものかと思った。

フレーベルの教育思想

欧州の幼稚園にはフレーベル型（主として新教系）モンテソーリ型（カトリック系）中間混合型（公立その他）の三つがあるが、基本的教育思想はそれぞれの園で生かされているように思った。フレーベルの場合、左の五つに要約できる。

①神と自然と人間との神的統一　彼は人間を含めて自然万物が神から出て神に支配されているという「万有在神」を基本とし、天体と宇宙、また鉱、植、動物などの自然を科学し、子ども自らを自発的、知的、形成的、創造的に発展させ、自然と人間とに共通する神性を認識

させることが教育の作業であるといっている。

ルソーは子どもを人間とし発見し、ペスタロッチは貧農の子どもも王座にいる人と変わらないとし、フレーベルは子どもの心に神性を見いだしたのである。

この第一の教育思想の表象として、宇宙のあらゆるものは、球（天体など）円筒（樹木や人間の身体の部分など）立方体（人工的なもの）の三体にまとめられるといい、彼の墓や、最初の幼稚園跡にも三体がある。

②自己発達の原因　幼児の内的動機に基く創造的な行動は、興味と成長しようとする力に支えられた活動で、教師は子どもがどの方面に伸びるかを注意深く見守りながら、変化に富んだ十分な設備と、その時どきに必要ない助言と、適当な刺激を与えることが大切であると彼はいう。

既にご実行の方も多いと存じますが、これこそ今すぐ私たちの毎日の保育にとりいれるべきことだと思えます。

③成長発達に即した教育　人間の発達は連続的なもので、前の段階の完全な発達を基礎として、次の段階の発達を期待することができるというのが、彼の主張である。学童の年齢に達したから学童となるのでなく、幼児期に精神的にも身体的にも種々な要求と課題が果たされ

て、はじめて学童期に入るべきであるといっている。

これは、知能的な早教育をする傾向にあるわが国の保育界で、もう一度原点に立って考えたい問題でもある。

④ 労作学習の原理 フレーベルは、人間は自覚的に自己の内的生命を表現する活動によってはじめて成長し、幼児は創造的な遊びをすることで学習するといっている。私たちは子どもが全能力をそそいで楽しく労作し遊べるように、子どもの次の段階を見越して、刺激になるものを毎日の保育でどれだけ準備してやってくるだろうか。

⑤ 他との調和を考える フレーベルは、人間は家族、社会、民族、全人間種族の一員であり、宇宙の一部である。すべてのものに統一、調和が望まれるように、幼児も個性を重んじると同時に、社会と調和すべきであると強調した。私たち保育者は、子どもたち同志、子どもたちと周囲のおとなとがうまく調和できるように、また子どもと環境との関係、細かくいえば紙一枚、クレヨン、はさみなども大切にうまく使いこなすというような所まで押しひろげ調和を考え、指導したいものである。

まとめ

三週間のかけ歩きで見た保育の原点は、観察力の弱さ、

基礎的勉強の不足もあって、真に不十分な恥ずかしいかぎりの報告であるが、このごろ、知的にも標準より上で大学に入学し、親の社会的地位や経済力も一般社会の中より上にあると思われる家庭の、ごく一部の青年ではあるが、他人さまの生命を無視した悲しむべき行動に驚かされ、彼等の性格形成時代の幼児期に彼らはどういふ心の教育を受けたのであろうかなど考え、保育者として息のつまる思いをしているのは私一人ではありませんまい。

子どもをエリートにしたいとか、また企業や経済発展の一要素として見るのではなく、人として尊重したい。このごろ日本人の代名詞のように使われるエコノミック、アニマル——経済的には豊かになったが、心は自己中心で他を顧みない動物——というあだ名を返上するために、性格形成時代の子どもの扱っている保育者、国の人づくりの重要なポストにいる幼児教育家が、もう一度「心」の教育、「人として」の教育に立ちかえりたいものであるとは、保育の原点をたずねてヨーロッパ旅行をした私の結論でございました。(国立音楽大学)